

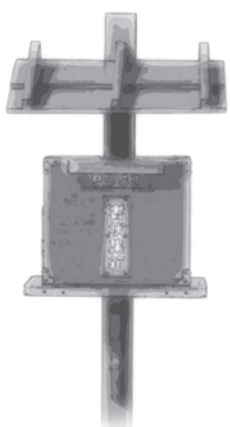


季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第二十二号〜

立冬<sup>りっとう</sup>

十一月八日



## 風景印

十一月に入り、年賀状の売り出しが始まりました。年賀状と聞くとひといきにあわただしくなります。

年末年始は郵便局へ足を運ぶことが増えますが、近頃では郵便局も広い駐車場付きの郊外型が目立ってきました。けれど、おはらい町治いの五十鈴川郵便局は、近所の人や観光客が歩いて立ち寄る昔ながらのスタイル、町の郵便局の雰囲気を残しています。そこで意外なご当地ものを見つけました。

「風景印」です。ふつうの消印は日付のみがほとんどですが、「風景印」はその郵便局の近くにある名所旧跡などを図案に取り入れた国内郵便物専用の消印で、一部の郵便局しか持っていない特別なものなのです。昭和六年に始まり、太平洋戦中は一時途絶えましたが、昭和二十三年より再開され、今では一万局がもっています。コレクションにしているファンも多くて、風景印のガイド本やスタンプ帳も出版されているほどです。

五十鈴川郵便局でうかがうと、やはり観光客の方が記念に押していかれるそうです。私もハガキに擬宝珠<sup>ぎぼうしゅ</sup>のついた欄干<sup>らんかん</sup>の宇治橋と内宮の社殿がデザインされた「風景印」をていねいに押してもらいました。丸くてエンジ色の「風景印」を押したハガキは、それだけで立派な内宮前の記念ハガキになります。「風景印」は官製はがきか五十円以上の切手を貼った台紙が必要で、窓口で希望すれば誰でも押印してもらえます。

季節の便りや遠方の方に出す手紙に、「風景印」を添えてみるのも喜ばれるのではないでしようか。

文 千種清美

